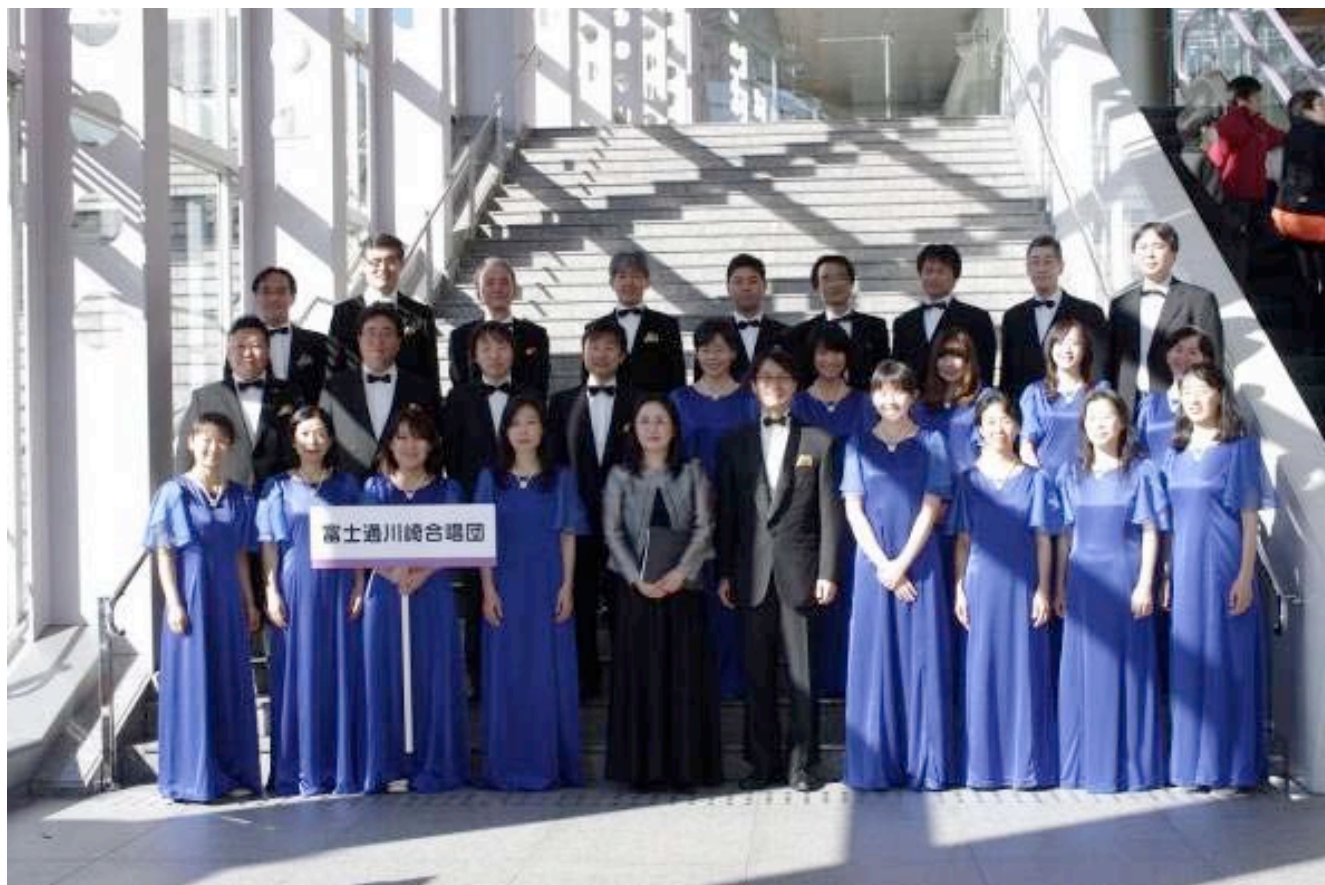


全日本合唱コンクール全国大会に出場し、銅賞受賞！【富士通川崎合唱団】



演奏後の充実感！ まばゆい光の差し込むホワイトにて

11月25日（日）、富士通川崎合唱団は、オーバード・ホール（富山市芸術文化ホール）において開催された「第65回全日本合唱コンクール全国大会」に出場しました。

【全日本合唱コンクールとは】

全日本合唱連盟・朝日新聞社の主催で、毎年秋に開催される、全国のアマチュア合唱団が演奏を競い合うイベントです。中学部門/高校部門/大学部門/職場部門/一般部門の各部門ごとに、県大会・支部大会（私たちの場合には関東大会）に勝ち残った合唱団が全国大会に出場することができます。全国大会の審査結果は金／銀／銅の各賞、および文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞などの特別賞となります。

今年度の私たちの演奏内容は次の通りです。

【演奏内容】

■曲目：

[課題曲]

〈G1〉 Ego sum panis vivus（私は命あるパンである） 作曲：Giovanni Pierluigi da Palestrina

[自由曲]

Ave Maria Ⅲ（アヴェ・マリア 3） 作曲：Rihards Dubra

Cantate Domino（主に向かって歌え） 作曲：Vytautas Miškinis

■指揮：加藤雅子

【成績】

★銅賞受賞

【レポート】

2006年に思いも寄らず全日本合唱コンクール全国大会に初出場を果たして以来、今年で連続7回目の出場となります。初出場した時の出場人数は16名でしたが、年々団員が増加し今回は27名での出場となります。人数が増えて音楽に厚みが増し、また、勝負を重ねるごとに演奏レベルもアップして

いき、今年の間東大会では2回目の金賞受賞。全国大会での好成績の期待も膨らみました。

来年度からのコンクール部門の再編により、私たちが出場する「職場部門」は他部門と統合されるため、職場部門単独としての出場は今年が最後となります。「何としてでも前年度までの銅賞から賞の色を変えたい!」と、団員全員が今までになく意気込んでいました。1週間前からは、ほぼ毎日練習を行うパートもあったほど、この特別な全国大会に向けてしっかりと準備を整えてきました。



富山駅で歓迎看板がお出迎え



富山支店の入るビル



当日早朝、本番を数時間後に控え真剣に練習

本番前日、いつもの練習場所である「ユニオンビル」で練習を終えた後、電車で富山へ移動、夜現地入りしました。当日は午前中の出番のため、早朝よりホテル・大会会場にほど近い富士通富山支店の会議室をお借りし、本番前最後の練習を行いました。この日はこの時期の富山にしては数少ない、現地の人もびっくりするほどの晴朗でした。会議室の大きな窓から、雲一つ無い青空に向けて声を届けるイメージで気持ちよく練習することができ、本番へ向けてテンションも高まります。発声練習の後、複雑な和音など難しい個所の再確認を行い、最後に本番を想定した通し演奏を行い練習が終了。後は今まで練習してきたこと、そして自分を信じて本番に臨むだけです。

リハーサルも終わり、いよいよ職場部門としての最後の舞台へ！ 十二分に練習を積んだ甲斐があり、関東大会の時よりさらにハーモニーの豊かさが増し、響きも安定して曲想が思い切りよく表現できました。過去の反省点でもあった、大きな舞台の雰囲気にも呑まれることなく、これまでの大会の中で一番良い演奏をすることができたと感じました。手応えはばっちりです！



会場前からちらりと望む立山連峰



岩瀬展望台から望む雄大な立山連峰

職場部門の他団体と一般部門の、貴重な素晴らしい演奏を聴いた後、日も暮れていよいよ審査発表の時が来ました。多くの団員が成績発表の瞬間を祈るような思いで待っていました。が、結果は前年度までと同じ銅賞…。全国大会のレベルの高さを改めて実感することになりました。残念ではありますが、職場部門単独での最後の大会で漸く全員が持っている力を出し切る演奏をすることができたので、悔いはありません。



表彰式で賞状と盾を掲げる富士団長・渡辺副団長

全ての審査結果が発表され表彰式が行われた後、大会の締め括りとして、中学や高校の行事等で演奏されることも多く合唱曲として有名な「大地讃頌」の全体合唱が行われました。競い合ったライバルとも手を取り合い肩を組み一体となり、会場全体に何とも言えないハーモニーが響き渡りました。

そして、曲の終わる直前に私達の大作戦の決行です。曲のクライマックスで、これまで職場部門の中の一団体として出演、楽しませていただいたことへの感謝を表し、「ありがとう、職場部門！！」の横断幕を掲げました！ これには他の職場部門の方々も感激された模様で、後日感謝のメールやお言葉をいただき、また、朝日新聞（吹奏楽・合唱事務局）のツイッターに写真が投稿されるなど、思

わめ反響に驚きました。ミッション大成功！！ 私たちにとって決して忘れることのできない感動的な閉会式となりました。



「大地讃頌」で一体となり盛り上がる



互いを讃え合う出演者たち



感謝を込めて「ありがとう、職場部門!!」の横断幕を掲げる団員

部門編成が新しくなる来年度以降のコンクール出場については、これから団内で検討することになります。しかし、これまでコンクール出場で得た経験はすべてが間違いなく糧になっています。これからもどんな場面であろうとも、聴いていただけるすべての方々の方に届く魅力的な演奏ができるよう、日々練習に励んでいきたいと思えます。

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団（ソプラノ）黒河内安代】